WWL コンソーシアム
構 築 支 援 事 業

カリキュラム開発
実践ハンドブック
【全体版】

World Wide
Learning

文部科学省

WWL コンソーシアム
構 築 支 援 事 業

カリキュラム開発
実践ハンドブック
【全体版】

目　次

第1章　WWL コンソーシアム構築支援事業について　・・・p.1

第2章　カリキュラム開発拠点校の取組

（Ⅰ.）開発したカリキュラムの内容　・・・p.5

（Ⅱ.）事例紹介　・・・p.27

第3章　データからみるWWL事業の成果・効果　・・・p.85

第4章　WWL 事業のカリキュラム開発のポイント　・・・p.99

まとめ　・・・p.107

第1章
WWL コンソーシアム構築支援事業について

Index

本章では、WWL コンソーシアム構築支援事業の全体像と、拠点校で行われている主な取組(カリキュラム)について説明します。

p.02 1. WWL コンソーシアム構築支援事業とは
1-1 事業概要
1-2 AL ネットワーク
1-3 目指す人材育成の方向性

p.03 2. カリキュラム開発拠点校の主な取組

1.　WWL コンソーシアム構築支援事業とは

1-1　事業概要

WWL コンソーシアム構築支援事業とは、将来、世界で活躍できるイノベーティブなグローバル人材を育成するため、これまでのスーパーグローバルハイスクール事業の取組の実績等、グローバル人材育成に向けた教育資源を活用し、高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取組とするための体制整備をしながら、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組み「アドバンスト・ラーニング・ネットワーク（ＡＬネットワーク）」の形成を目指す取組です。

1-2　AL ネットワーク

カリキュラム開発拠点校を中心として組織的に研究開発・実践に取り組む体制を整備するため、管理機関（国立の高等学校等にあっては当該学校を設置する国立大学法人、公立の高等学校等にあっては当該学校を所管する教育委員会又は公立大学法人、私立の高等学校等にあっては当該学校を設置する学校法人等）を設けています。

AL ネットワークの参加機関は、令和５年度現在、「共同実施校以外の国内高校（連携校）」「海外高校」「国内の大学等教育機関」の割合が高く、33 ネットワークの総計で「共同実施校」は８、「共同実施校以外の国内高校（連携校）」が 289、「国内の企業・国際機関等」が 145、「海外高校」が 119、「国内の大学等高等教育機関」が 83、参加しています。

AL ネットワークのイメージ

●国際会議の開催等により、プロジェクトが効果的に機能するよう高校間のネットワークを形成

●高等学校と関係機関をつなぎ、カリキュラムを研究開発する人材（カリキュラムアドバイザー）等の配置

機関	共同実施校	国内高校（連携校）	海外高校	国内の大学等高等教育機関	海外の大学等高等教育機関	国内の企業・国際機関等	海外の企業・国際機関等	その他
合計	8	289	119	83	27	145	9	1

図　令和５年度　参加している機関数（33 ネットワークの合計）

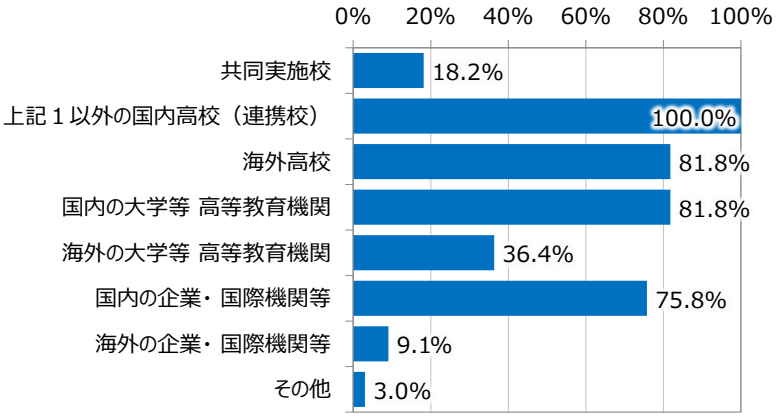

図　令和５年度　AL ネットワークに参加している機関（複数回答）（n=33）

1-3　目指す人材育成の方向性

本事業では、Society 5.0 において共通して求められる力（①文章や情報を正確に読み解き対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力等）を基盤として、将来、新たな社会を牽引し、世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベーティブなグローバル人材を育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組み「アドバンスト・ラーニング・ネットワーク」（以下「ＡＬネットワーク」という。）を形成した拠点校を全国に配置することで、将来的に、WWL コンソーシアムへとつなげることを目的としています。

人材育成の構想

イノベーティブなグローバル人材像を、資質・能力（コンピ テンシー）、心構え・考え方・価値観等（マインドセット）、探究スキル等の観点から多面的に設定。	ＡＬネットワークの目的と役割を明確化。	設定したイノベーティブなグローバル人材像及びＡＬネットワークの目的と役割に基づいて、短期的、中期的及び長期的な目標を具体的に設定。

2. カリキュラム開発拠点校の主な取組

本事業では、イノベーティブなグローバル人材育成を目指して、ALネットワークごとの特徴を活かして、以下のようなカリキュラムを開発し、実践していきます。

探究型学習

高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生が主体となり、海外をフィールドにグローバルな社会課題の解決に向けた探究的な学びを実現するカリキュラムを開発。

テーマ設定

事業実施にあたって、グローバルな社会課題研究としてテーマ（SDGs、経済、政治、教育、芸術等）を設定。

教育課程の編成

文系・理系を問わず、各教科をバランスよく学ぶ教育課程の編成をする。

外国語や文理等の融合科目

カリキュラムの研究開発・実践において、外国語や文理両方の複数の教科を融合し、テーマと関連した「グローバル探究」等の新たな教科・科目を設定。その実施にあたっては、外国人講師やICT等を活用。

オンラインの活用

これまで訪問できなかった国の高校生や大学生等とのオンライン海外フィールドワークなど、世界規模で生じた豊かなオンライン環境を駆使したカリキュラム開発。

高校生国際会議

国内外の大学、企業、国際機関等と協働し、国内外の高等学校等との連携によるテーマと関連した高校生国際会議等を事業終了までに行う。

海外研修・交流

海外の連携校等への短期・長期留学や海外研修等を、カリキュラムの中に体系的に置づけて対象となる生徒が必ず経験するようにする。国が実施するアジア高校生架け橋プロジェクトや海外の連携校等からリーダー、架け橋となる人材を受け入れ、日本人高校生と留学生が一緒に英語等での授業・探究活動等を履修するための学校体制を整備。

高大連携・先取り履修

大学等と連携した大学教育の先取り履修（カリキュラム開発）により、高度かつ多様な科目等の学習プログラム／コースを開発。大学教育の先取り履修を可能にする取組を事業終了までに行う。

高度な学習

より高度な内容（例えば、微分方程式、線形代数、データマイニングや国際法等）を学びたい高校生が学習できる環境整備をする。